

第20回 中学生海外派遣報告



8月18日から25日までの8日間の日程で、第20回幸田町中学生海外派遣団（生徒20人、引率者4人）がオーストラリアのケアンズ市を訪問しました。

市内社会見学、セント・アンドリュース・カソリック・カレッジ体験入学および交流、ホームステイなどの研修を行い、日頃、学校生活では味わえない感動や貴重な体験をしました。

感性豊かな中学生が、同世代の若者との交流や体験を通じて感じたこと、学んだことを報告します。

もてなしの心

北部中学校 杉田 佳祐

僕が海外派遣の活動の中で一番不安を感じていたのがホームステイでした。僕の家ホストファミリーは60代の老夫婦でした。最初は何か話さなければ、と焦ってしまい、一生懸命に話しかけてみたものの、言いたいことがうまく言えずに、精神的にとっても疲れてしまいました。

次の日からは焦らずに、リラックスして過ごすようにしました。そうしてみると、お互いに気を遣わずに、気持ちよく生活できるようになりました。気持ちに余裕ができ、会話も少しずつ自然にできるようになりました。聞き取れないこともありましたが、町のことなどを質問すると、とても丁寧に教えてくれました。

このホームステイで僕が一番うれしかったのは、ホストファミリーが本当の家族のように接してくれたことです。文化の違いや言葉の壁を越えて、海外から来た人を優しく受け入れるホスピタリティにとても感動しました。僕も日本で外国のかたと接する機会があれば、同じように接していこうと思いました。

第20回 幸田町中学生海外派遣

幸田中学校

上村周平 貝吹大我 神谷龍輝 森貴明 小久保彩花
鈴木彩希 関菜摘 矢倉晃

南部中学校

加藤秀太 近藤将太 石河優佳 竹本奈央 日高恵理子

北部中学校

今井瞭太 蟹江祐太郎 杉田佳祐 前田和輝 並川晴佳
早川有香子 横地菜都美

引率者

寺本卓 鈴木一也 牧哲朗 天野広子



体験入学で目にしたこと

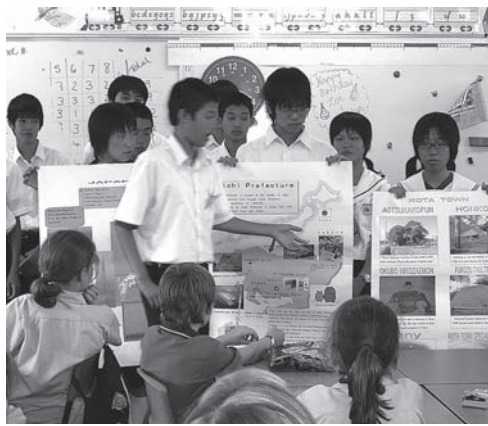
南部中学校 近藤 将太

僕は、今回の海外派遣での体験入学先で、日本の学校とオーストラリアの学校との違いにとっても驚かされました。オーストラリアのセント・アンドリュース・カソリック・カレッジの生徒たちは、日本に比べて学校の中での生活がとても自由だったように感じました。教室の移動が多く、そのたびに遅刻してくる子が数人いたり、授業中に床に座って授業を受ける子がいたり、ちょっと日本では考えられないようなこともいくつかあり、オーストラリアの学校の雰囲気慣れるのに少し苦労しました。

日課にもいくつか違いがありました。モーニングティーというおやつ時間がありませんでした。その時間では、自分で持ってきたお弁当や購買で買ったパンやお菓子などを、ベンチや芝生の広場などで楽しく食べていました。僕たちがお弁当を食べていると、現地の子たちが、「コンニチワ〜。」とか「スシおいし〜。」などいろいろと話しかけてきてくれて、僕たちも食事の時間を楽しく過ごすことができました。日本語を一生懸命に勉強している子もいて、ノートに形容詞がたくさん書かれていた

り、日本語を教えてほしいと言ってきたりする子もいました。そんな姿を見て、なんだか親近感がわいてとても嬉しかったです。僕ももつと英語を勉強して、世界のいろいろな国の人たちとたくさん交流できるようにになりたいと思いました。

今回の海外派遣を通して学んできたことを、これからの自分の生活に生かすとともに、たくさんの人たちに伝えていきたいと思っています。



人と自然のすばらしさ

幸田中学校 関 菜摘

私はこの海外派遣を通してオーストラリアの良さをたくさん見つけることができました。

まず、一番すごいと思ったのは、オーストラリアの広大な自然です。

ケアンズにある熱帯雨林には、日本では見られないような、大きくて迫力のある植物が数多くありました。また、グレートバリアリーフは驚くほど青くきれいで、魚もたくさん生息していました。

このようなすばらしい自然を保つため、現地の方々は様々な取り組みや努力をしているのだろうと感じました。

また、ケアンズの市内見学などを通して、現地の方々のやさしさにふれることができました。オーストラリアの方々は、とても明るく親切な人ばかりでした。気軽に話しかけてくれたり、あいさつしたりしてくれている人達がたくさんいました。そして、みんな仲が良さそうで楽しそうに話している姿をよく見かけました。

今回、海外派遣に参加することができて、貴重な体験をたくさんさせていただきました。この体験を一人でも多くの人に伝えたいと思います。



貴重な体験を生かす



団 長
寺本 卓
(北部中学校長)

ゴム風船に例えるなら、派遣生(20人)の認識や視野、そして心持ちが、確実に大きく膨らんだ8日間の海外派遣事業になったと確信します。

現地の家庭に入り込み、4日間、衣食住を共にしたホームステイでは、国民性や生活習慣・マナーなどの違いを、肌で感じ取ることができたと思います。

現地校での学校生活は、2日間、バディ(現地校の級友)とともに、いろんな教科の授業に参加し、日本の教育と比べながら、いろいろと考えさせられたことでしょうか。

この海外派遣で得た体験を、各学校に持ち帰り、これからの学校生活に生かし、そして、幸田町に貢献してくれることを期待しています。

貴重な体験の機会を与え続けていただいている町ご当局に、心より感謝申し上げます。